


第65次南極地域観測隊つくば市表敬訪問 鈴木隊員（左）と五十嵐市長（中央）

## CONTENTS

1. 第65次南極地域観測隊出発 ..... 2
2. 第29回測量行政懇談会を開催 ..... 3
3. 第74回日本学校農業クラブ全国大会（平板測量競技会）で国土地理院長賞を授与 ..... 4
4. 関西G空間フォーラム2023を開催 ..... 5
5. 「測量の日」関連行事を実施
  - 四国管内の小中学校で「測量と地図の学習会」を開催 ..... 6
6. 「自然災害伝承碑 」ウェブ地図「地理院地図」での公開数 ..... 7
7. 10月の報道発表・12月の主な行事予定 ..... 7

## 第65次南極地域観測隊出発

第65次南極地域観測隊は、11月24日に羽田空港からオーストラリア経由で南極の昭和基地に向けて出発しました。また、出発に先だち、10月25日につくば市所在の機関から派遣される隊員がつくば市長を表敬訪問しました。

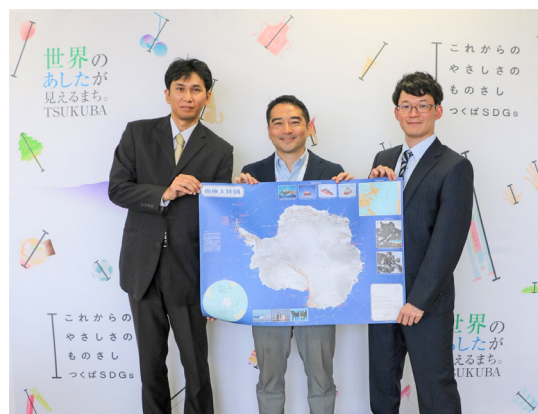
### ■ 国土地理院からは鈴木隊員が参加

第65次南極地域観測隊は、越冬隊27名、夏隊53名、夏隊同行者20名で編成され、夏隊員として、測地部 <sup>すずきあきら</sup>鈴木啓宇宙測地課課長補佐が参加しています。

鈴木隊員は、南極地域観測事業における測地定常観測として、国際的な位置の基準である国際地球基準座標系の構築に貢献するため、昭和基地にある複数の宇宙測地観測局の位置関係を精密に求める作業（コロケーション）を行います。また、昭和基地及び露岩域での量子型絶対重力計を用いた絶対重力測量を行うとともに、位置情報を整備するための基準点測量やドローンを用いて地図作成に必要な空中写真撮影を実施します。さらに、国際GNSS事業（IGS）の観測点であるGNSS連続観測局（SYOG）や地盤変動を検出するために設置したGNSS固定観測点の保守等を実施する予定です。

これらの観測によって、より正確な地球の形状やその変化を捉えることをはじめ、南極地域観測隊の活動を支える地理情報の整備に貢献します。

### ■ つくば市長を表敬訪問



鈴木隊員（左）と五十嵐市長（中央）

出発を前にした10月25日、鈴木隊員は市内の機関に勤務する隊員や関係者ととともに、つくば市の <sup>いからしたつお</sup>五十嵐立青市長を表敬訪問し、激励の言葉をいただきました。

鈴木隊員は、令和6年2月中旬に昭和基地を離れ、令和6年3月21日（木）に帰国する予定です。



第65次南極地域観測隊として出発した鈴木隊員（左から4番目）

（総務部・測地部）

## 第29回測量行政懇談会を開催

10月30日、第29回測量行政懇談会を対面及びウェブ会議の併用で開催しました。

測量行政懇談会は、国土地理院長の私的諮問機関として、国土地理院が所掌する測量行政の的確な推進に資するために、国土地理院長の諮問に応じて測量行政に関する重要事項を調査検討するとともに、重要事項に関し、国土地理院長に意見を述べるために設置された機関です。



懇談会の様子

懇談会では、<sup>あさみ やすし</sup>浅見泰司委員長（東京大学大学院教授）の進行の下、7つの議題に関する報告等に基づき議論が行われました。

委員からは以下の2つの報告がありました。

### 1. 次期基本測量に関する長期計画（案）

次期「基本測量に関する長期計画」について、「基本政策部会」の部会長である<sup>ふせたかし</sup>布施孝志委員（東京大学大学院教授）から、同部会で議論のうえ取りまとめた計画案について説明がありました。各委員からは、今後10年間の社会を見据えた長期的な測量行政のあり方や人材育成等について、アドバイスやご意見等を多数いただき、それらを踏まえた修正を行うことで計画案が了承されました。

### 2. 地理空間情報の活用における個人情報の取扱いに関するガイドライン（測量成果等編）（案）

「<sup>いのうえ ゆり</sup>流通・活用制度部会」の部会長である井上由里子委員（一橋大学大学院教授）から、同部会において議論のうえ取りまとめたガイドライン案について説明があり、了承されました。

国土地理院からは以下の5つの報告を行いました。

### 3. デジタル化済み空中写真フィルムの管理方針

国土地理院で保管している空中写真フィルムの管理方針について、「原則として保管するが、劣化が進行し使用不可能な一部のフィルムは破棄する」こととし、それを決めるに至った経緯等について説明しました。

### 4. 日本測地学会「坪井賞 個人賞及び団体賞」の受賞

令和5年の日本測地学会坪井賞について、国土地理院及び職員の研究が評価され、同賞の個人賞及び団体賞を受賞したことを説明しました。

### 5. 高精度な軌道情報の提供を通じた測位基盤の強化

準天頂衛星システム「みちびき」を含む測位衛星の精密な軌道情報について、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）と共同し、自律的かつ安定的に生成・提供するための取組を説明しました。

### 6. 「明治期の低湿地データ」の整備範囲を大幅に拡大

自然条件に即した効果的な防災対策・危機管理対策・土地利用計画に寄与することを目的に、平成25年3月から公開を開始した「明治期の低湿地データ」について、新たに神戸市等35地区約4.3万km<sup>2</sup>のデータを公開したことを説明しました。

### 7. 2,000基を超える自然災害伝承碑が伝える災害の教訓

令和元年に地理院地図で公開を開始した「自然災害伝承碑」について、令和5年10月26日時点において全国の掲載数が2,037基となり、2,000基を超えたことを説明しました。

第29回測量行政懇談会の詳細については、国土地理院ホームページをご覧ください。

<https://www.gsi.go.jp/seisakuchousei/seisakuchousei41051.html>

（総務部）

## 第74回日本学校農業クラブ全国大会(平板測量競技会)で国土地理院長賞を授与

第74回日本学校農業クラブ全国大会令和5年度熊本大会（主催：日本学校農業クラブ連盟、全国農業高等学校長協会ほか、後援：文部科学省、農林水産省、国土地理院、熊本県ほか）が熊本県熊本市、玉名市、山鹿市、八代市及び菊池市の各会場で、10月25日、26日の2日間にわたり開催されました。



平板測量競技会最優秀校（長野県佐久平総合技術高等学校）に国土地理院長賞を授与

全国大会は、「農業高校の甲子園」とも呼ばれており、農業関係高校で学ぶ生徒たちが日頃の学習成果の発表や実習等で学んだ成果を発揮し、生徒達相互の交流を目的として毎年開催されています（第71回静岡大会は、新型コロナウイルス感染症防止対策のため中止）。

九州地方で開催される全国大会は、第69回平成30年度鹿児島大会以来となります。本大会では、「燃える情熱 火の国に集い 今咲かそう 農クの華」、「がんばるばい！」の元気と笑顔で恩返し～復興の地・熊本から広げる、感謝の心と農クの絆～」の二つをスローガンに掲げ、全国から選ばれし農業クラブの精鋭が「プロジェクト発表会」、「意見発表会」、「平板測量競技会」、「農業鑑定競技会」、「家畜審査競技会」、「農業情報処理競技会」及び「クラブ員代表者会議」の7部門で競い合いました。

このうち平板測量競技会は、えがお健康スタジアム（熊本市）で日本農業学校クラブの各都道府県連盟が選出した49チームにより、平板による境界線測量及び三斜法・三辺法による面積計算について競い合い、平板測量の技術・正確さ・スピードなどが審査され、優秀な成績を収めた学校には国土地理院長賞が授与されるものです。



26日には、熊本城ホールメインホール（熊本市）で大会式典が開催され、7部門の最優秀者及び最優秀校の表彰式が執り行われました。また、大会式典の様子は、インターネットによりライブ配信が行われました。

平板測量競技会では、最も優秀な成績を修めた長野県佐久平総合技術高等学校に大木章一<sup>おおき しょういち</sup>国土地理院長（代理：桶屋敏行<sup>おけ やとしゆき</sup>九州地方測量部長）から国土地理院長賞の賞状と楯を授与しました。



平板測量競技会の様子

なお、来年度は、第75回日本学校農業クラブ全国大会令和6年度岩手大会として開催される予定です。



平板測量競技会の様子

(九州地方測量部)

## 関西G空間フォーラム2023を開催

地理空間情報活用推進に関する近畿地区産学官連携協議会（会長：大阪工業大学吉川眞名誉教授<sup>よしかわしん</sup>、事務局：近畿地方測量部）の活動の一環として、10月13日に大阪工業大学梅田キャンパス（大阪市）において関西G空間フォーラム2023を開催しました。

関西G空間フォーラムは、地理空間情報を高度に活用する社会（G空間社会）の実現に寄与するため、産学官が一堂に会し地理空間情報の活用に関する情報共有や意見交換を行い、将来を展望するものです。毎年大阪市で開催しており、第13回となる今回ば地理空間情報活用の新たな展開」をテーマに開催し、372名の来場がありました。フォーラムは、合同シンポジウムと展示会が行われました。



シンポジウム会場の様子

### 【合同シンポジウム】

合同シンポジウムは三部構成により、以下の内容で行われました。

第一部の測量技術講演会では、地理情報システム学会長・慶應義塾大学教授の厳網林氏<sup>げんもうりん</sup>より「IoT/AIによるGeoWorldの深化と拡張—地理的サイバーフィジカルシステム（Geo CPS）を通して」と題して、仮想（サイバー）空間と物理（フィジカル）空間、それらを融合する交流空間におけるGISとAIの深化と拡張の可能性について講演をいただきました。国土地理院からは、山際敦史<sup>やまざわあつし</sup>測地部長が「高度な地理空間情報を支える『国家座標』の展望」と題して、高精度測位社会の土台となる地殻変動補正とGNSS標高測量の取組について紹介しました。

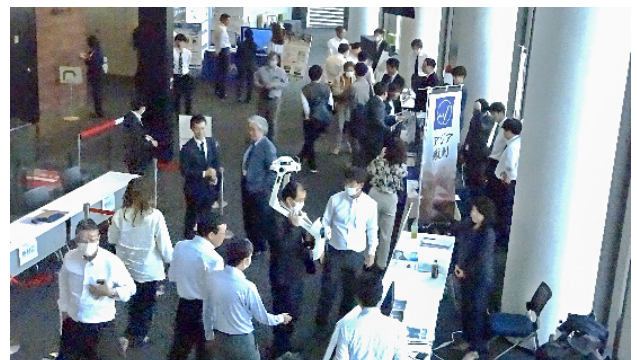
第二部の関西地域GIS自治体意見交流会では、富田林市、京都府、アジア航測（株）、（一社）GIS支援センターから地方公共団体における地理空間

情報の利活用と今後の展開について報告していただきました。

第三部の合同パネルディスカッションでは、「地理空間情報活用の新たな展開」をテーマに、大阪工業大学教授の田中一成氏<sup>たなかかずなり</sup>をコーディネータとし、山際測地部長と第二部講演者とで、会場からの質問に回答しながら活発な意見交換が行われました。

### 【地理空間情報関連の機器・システム等の展示会】

12団体・企業が最新の測量機器や解析システム等の展示を行いました。近畿地方測量部は「測る」「描く」「守る」「伝える」各ミッションの最新動向を紹介するパネル展示を行いました。



機器・システム等展示会場の様子

来場者からは自治体GISに関する課題への共感や地理空間情報活用に関する今後の期待等の感想が聞かれました。近畿地方測量部では、今後も地理空間情報活用推進のため、産学官で連携を図りながら、継続的に取組を進めてまいります。

（近畿地方測量部）

## 「測量の日」関連行事を実施

### ● 四国管内の小学校で「測量と地図の学習会」を開催

「測量の日」四国地区推進協議会は、「測量の日」関連行事の一環で、こどもたちに測量や地図について、楽しみながらその大切さを学んでもらうことを目的として、「測量と地図の学習会」（以下「学習会」という。）を校内に電子基準点等が設置してある小学校で開催しました。

#### ■実施校（各県一校）

- 9月 8日 徳島県松茂町立喜来小学校  
4年生 40名
- 9月 21日 香川県三豊市立大見小学校  
4年生 18名
- 9月 25日 高知県四万十市立中筋小学校  
4～6年生 14名
- 9月 29日 愛媛県鬼北町立三島小学校  
5～6年生 11名

#### ■実施内容

- ・講義「地図と私たち」約30分
  - ・実習「測量体験（歩測体験）」約60分
- ※実習担当：各県測量設計業協会

はじめに、四国地方測量部の職員から「地図と私たち」と題して、国土地理院の業務紹介のほか、地図の作り方、地図記号、自然災害伝承碑、電子基準点などについて説明しました。また、会場には、南極の地図や小学校付近のデジタル標高地形図を展示しました。

ほとんどの児童は、国土地理院のことを知らなかったとのことでしたが、積極的に質問するなど大いに興味を持った様子でした。



講義の様子（中筋小学校）

また、校内に設置してある電子基準点を見学し、その仕組みや役割について説明を聞いて、「普段見られない電子基準点の中身を見られてよかった。」「電子基準点を大切にしたい。」などの声が聞かれました。



電子基準点の説明（大見小学校）

実習「測量体験（歩測体験）」では、投げたボールの飛距離を歩測して、自分の歩幅から距離を計算し、正確性を競いながら、測量の体験をしました。



実習の様子（三島小学校）

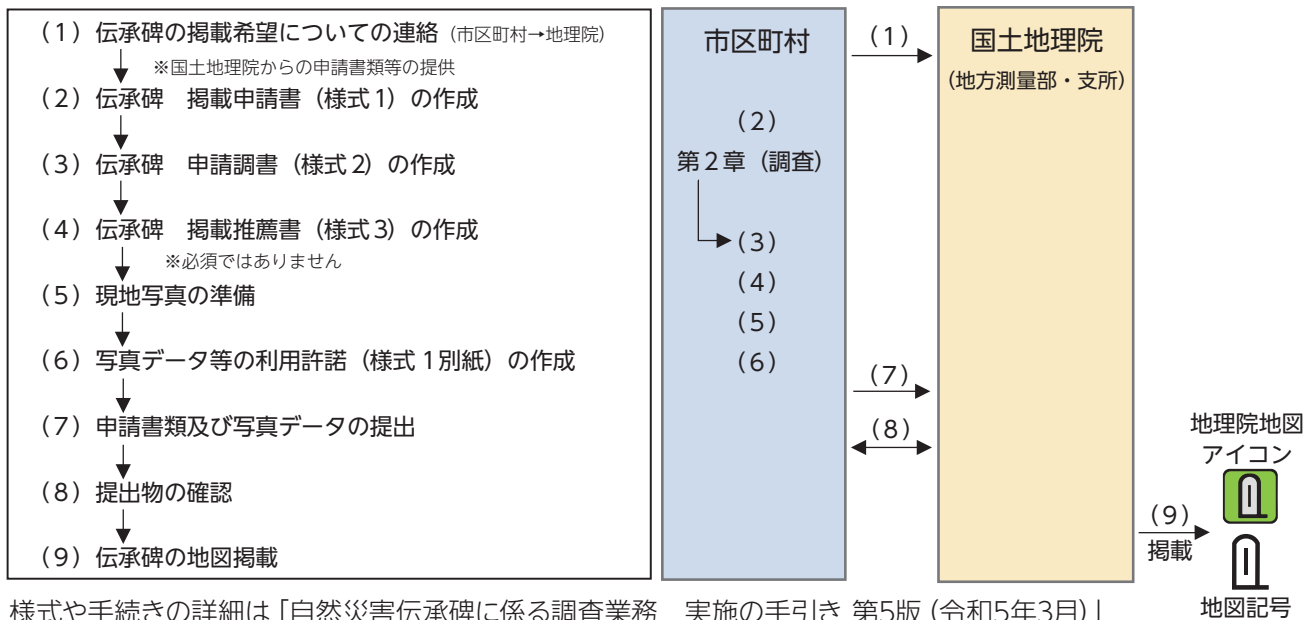
学習会終了後、児童からは、「地図記号がこんなにたくさんあるとは知らなかった。」「地図の勉強を頑張りたい。」などの感想が寄せられました。

四国地方測量部では、6月にも高等学校で学習会を開催しています。今後もこうした学習会を通して、測量と地図の魅力を伝える活動を、関係団体と協力して進めてまいります。（四国地方測量部）

47	都道府県	584	市区町村	2037	基
----	------	-----	------	------	---

詳細については、自然災害伝承碑のページ (<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi>) をご覧ください。  
**【市区町村の担当者の皆様へ】** 自然災害伝承碑に関する当院への情報提供にご協力をお願いいたします。

自然災害伝承碑の申請の流れ



様式や手続きの詳細は「自然災害伝承碑に係る調査業務 実施の手引き 第5版 (令和5年3月)」 ([https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi\\_info.html](https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi_info.html)) をご覧ください。

10月の報道発表

10日	令和5年9月の地殻変動	測地観測センター 地理地殻活動研究センター
12日	令和5年度第2回 測量行政懇談会 流通・活用制度部会の開催について	企画部
19日	「G空間 EXPO2023」を11月7日・8日に開催します！ ～今年のテーマは「いま、ここ、未来。すべてはG空間の中に。」～	企画部
23日	測量行政懇談会 (第29回) の開催について	総務部
31日	高解像度の地形データの提供を開始します	基本図情報部 地理空間情報部

報道の内容は、国土地理院ホームページ> 2023年 報道発表資料一覧 ([https://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/press-2023\\_00001.html](https://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/press-2023_00001.html)) をご覧ください。

12月の主な行事予定

10/24~12/17	地図と測量の科学館 領土・主権展示館 地方巡回展 in 首都圏 つくば会場 日本の「領土・主権」を考える 北方領土・竹島・尖閣諸島パネル展 地図と測量による領土の明示パネル展
11/1 ~ 12/10*	G空間 EXPO2023 【※オンライン開催】 <a href="https://www.g-expo.jp/">https://www.g-expo.jp/</a>

国土地理院広報は、  
国土地理院ホームページ> 広報誌 > 国土地理院広報 (<https://www.gsi.go.jp/WNEW/koohou/>) に掲載しています。

発行 国土交通省国土地理院  
Geospatial Information Authority of Japan  
〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番  
TEL 029-864-6255  
FAX 029-864-6441  
連絡先：総務部広報広聴室  
国土地理院ホームページ  
<https://www.gsi.go.jp/>